

長期戦略:テーマ 「学修支援の充実」

提出日 2019年 8月 28日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	宮田教務機構長 (教務機構長)	実施計画の 担当部署	教務機構
-----------------------	--------------------	---------------	------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(13)-③ TA・LA・SAの活用推進	(2020)年度	(2022)年度	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)	要
内容 LA の配置により、授業での教育支援(教員への支援を含む)、授業外での学修支援を強化する。初年次教育である導入科目等を対象としたLAについては制度開始から7年がたち、今後の在り方は新たなライティングサポート制度と合わせて考えていく。 SAについては、特に全学科目情報科学科目の現状の課題を抽出し、現状のままか、外部委託するかを検討する。 TAについて各学部では、①大学院生の減少で確保が難しい、②大学院生全員にあたらぬ、③月額報酬の場合、報酬に対して実働が少ない、人によって実働に差が生じる、④確保したいが他研究科生を重複採用できない、などの課題があり、①業務実働に合わせた報酬制度、②他研究科生の重複採用、③外部委託、などを検討することが考えられる。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	共通学生調査(IR 上級生調査)の項目「大学での経験機会:授業補助者から補助を受ける」の「頻繁」「ときどき」の割合	共通学生調査(IR 上級生調査)の項目「大学での経験機会:授業補助者から補助を受ける」の「頻繁」「ときどき」の合計、60% (2017年度調査、頻繁が9.6%、ときどきが36.2%、合計45.8%)		
指標2				
指標3				

目標1<指標1> 授業補助者から補助を受ける」の「頻繁」「ときどき」の合計

	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
目標	45%	50%	55%	60%
実績				

目標2<指標2>

	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
目標				
実績				

目標3<指標3>

	(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
目標				
実績				

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
TA、LA、SA の配置	策定段階	TA、LA、SA の現状調査、適正配置の検討	TA、LA、SA の配置	TA、LA、SA の配置	TA、LA、SA の配置	TA、LA、SA の配置
	2020 年 3 月末段階	—				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	TA、LA、SA の配置	TA、LA、SA の配置	TA、LA、SA の配置	TA、LA、SA の配置	
	2020 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
TA の配置	策定段階	TA 制度の検討	TA の配置	TA の配置	TA の配置	TA の配置
	2020 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	TA の配置	TA の配置	TA の配置	TA の配置	
	2020 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2020年度 承認	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2020年度 承認	(2021)年度	(2022)年度	4年目以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2018 年度	SA の外部委託について、PC サポート室に常駐職員を派遣していただいているトランスコスモス株式会社に相談したところ、返事をいただけなかった。3月に実施した情報科学科目のカリキュラム改編説明会にて、担当者からは「学生と同じ立場で相談に乗れる SA に助けられている」という声を多数いただいたため、外部委託するかどうかについて、再度検討する必要がある。TAについては、具体的な検討は進められていない。
2019 年度	
() 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	定期試験期間の短縮を検討する上で課題となっている監督補助者の確保については、他研究科の TA の活用以外に、監督補助業務のみ業務委託する可能性も視野に入れて検討する。
(2020) 年度	
(2021) 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
() 年度	